

平成 26 年度 第 5 回三原市市民協働推進委員会 概要

◇日時：平成 26 年 12 月 24 日（水）午前 10 時～午前 11 時 45 分

◇場所：本庁議会棟 3 階 委員会室

◇出席委員：11 名（欠席 4 名）

◇議事内容

◇主な意見（○委員，●事務局）

1 開会

2 報告

・アンケート調査結果について

事務局より説明。

○：自由意見を見ると，協働を進めるためのヒントとなる事例やアイデアが書いてあり，ひとつずつ追いかけていかなければならないと思う。キーワードが見えてきた。

3 協議

（1）現計画の検証結果について（資料 1）

事務局より説明。

○：市民の満足度は高くても B だった。全体的に市民の満足度は低い。行政が何をやっているか知らないから評価が下がるということがある。満足度と実際の効果，実績は違う指標になってくる。それを踏まえて，この結果をどうしていくか考えていく必要がある。

●：2 ページの「計画策定に際し市民の声を広く聴く機会の充実」については，パブリックコメントを指標としている。最近の計画づくりでは，ワークショップやアンケートを実施し，市民の声を聴く機会を持っているが，さらにどういったことを市民は望んでいるのか，アンケート結果を見てもまだ分からない。次期計画では，力を入れるべき部分だと感じている。

○：メニューとしては提供しているが，市民は満足していないということではないか。関係事業が書かれているが，合意形成の部分に市民が関われないということが，市民の満足度と行政の評価に関きが出たことに繋がっているのではないか。

●：事業の進捗を評価としていることについては，委員の指摘のとおりだと思う。その成果の考え方に開きがあるのだと思う。市民の声については，アンケートやワークショップで聞いたという思いはあるが，聞いた結果がどのように反映されたのかという説明が不足していた。

○：声が具体的にどのように改善していくべきか考えるときのキーワードになってくると思う。

●：アンケートをした，計画ができたというだけでなく，アンケートをして，その結果を広報することもひとつの手段と思う。

○：資料 1 の 2 ページ，「協働の担い手のネットワーク形成の促進」の指標にある，「テーマ別・地域別の対話の場設置の企画・実施」の年 1 回とは関係事業それぞれを年 1 回実施しているという意味か。

●：行政内部で年 1 回そういったネットワークがあるか調査をしたという指標である。

○：「協働の担い手のネットワーク形成の促進」について，市民の重要度は高いが，満足度は低いという結果になっている。市全体で年 1 回というのはネットワークとしては形式的である。小さな地域で，

年に何回か具体的な協働の検討や合意形成を図る場として、ネットワークを求められているのではないか。

- ：アンケートの自由意見のまとめで、ネットワークやコーディネートという言葉でくくってしまうと、どのような機能、目的で、どういったものを欲しているかが消えてしまう。
- ：いろいろなレベルでのネットワークがある。ヒアリングで、現場でどう困っておられるのかを拾い上げることができれば、皆さんが使えるものになると思う。
- ：協働の評価指標としては、ネットワークによって従来のやり方と比較したときに、費用が少なくなり、地域がよくなったなどの指標のほうが、本質の評価になる。情報にも同じことが言えて、アクセス件数という定量的な評価も重要だが、その情報を知って、いいものが出てきたということを経験するほうが、本来、達成しようとしているところに近づいていくと思う。
- ：関係事業の担当課が、そのプロセスの中で具体的にどのような悩みや課題があったかを整理すると、評価がしやすくなるのではないか。それぞれの事業の協働のプロセスがわかる記録集のようなものは担当課にないのか。
- ：内容を見ると、委員会方式や委託による協働の形がある。1つの課題を一緒に掘り下げていく部分は多くないと思う。
- ：一つ二つでもそういう形で追いかけていくと、どういった指標を評価指標にすればいいのかというヒントが出てくるのではないか。
- ：行政は根拠のある制度や法律があって、それを枠内で着実に実行していくことが仕事ではないかと思う。活動をコーディネートすることは市の本来の役割として無理があるのではないかと思う。そういう役割を新たに設定することを考えるべきではないか。
- ：そういうことに長けている市民をコーディネートする人として委嘱して、動いてもらったらいいのではないか。
- ：資料1の2ページの星印がついているところで、市民の評価でDがついていることがショックであった。これは町内会長が1年で変わるなどが影響しているのではないか。
- ：例えば、最低でも3年任期という基本申し合わせのようなものを作って、皆さんに示すということも一つの手段だと思う。
- ：それは各地域の特色があるので、一律にするのは難しいのではないか。
- ：今回、自治会・町内会から中核組織にということがあるが、一律的、画一的ではなく、そのメリットやその地区の特性に合わせたやり方を示すことができるかということかと思う。
- ：町内会では難しいかもしれないが、中核組織がしっかりしていれば、中核組織の中で各町内会員に指示したり、下ろしていったりということができるのではないかと思う。
- ：そういう位置づけとして中核組織を作る方向に向かっていけばいいのではないか。

(2) 現状の課題と今後の対応策について

- ：団体は、成長指標、達成指標を持って自己評価をしないと、自分たちはどちらを向いていったらいいのかが見えないと思う。そうした仕組みがないと満足度は向上しないし、行政とのギャップも埋まらないと感じている。
- ：評価指標をチェックすることが必要である。

- ：自らもチェックして、組織をどう活性化させるのか、その指標がないと前に進めないのではないか。
- ：各団体自らがチェックできるような事例はないか。
- ：評価シートは市として使っておらず、事例の把握もしていない。今後の市の推進体制として、自己評価の仕組みづくりがあれば、評価結果が活動支援や団体の連携の中で活用できると思う。委員の言われた視点は、今後5年間の方向性や対応策の中で取り入れていきたい。
- ：カルテのようなものを作って、団体と行政それぞれチェックできればいいのではないか。
- ：それぞれの団体が自分たちの現状を知って、どのポイントを課題として捉えて、どうすればいいのかが少し分かれば、動いていくところもあるのではないか。本当に厳しい状況にあるところは、外部からの力がないと動けないというところもあるかと思う。
- ：事務局は事例を集めてみてほしい。次の一步、ステップに進むには示していく必要があると思う。
- ：町内会の加入率が60%ということだが、加入率が100%というところは少ない。人材を60%の中で探すのは難しい。これは、単位町内会独自でどうできる問題ではない。加入率を100%に近づける取組みをすれば、人材も増え、いろいろな意見も増える。そのあたりを考えてもらいたい。
- ：自分たちの活動を構成員に知らせることが重要だ。そのために回覧板などがあるが、その書き方、広報の仕方を町内会や活動団体の方を対象に研修して伝えることも一つの方法と思う。町内会の役員の活動が住民にうまく伝わっていないのではないか。そこを改善していくことが、活性化には重要になってくる。
- ：誰かがやってくれるだろうという意識で動いている。
- ：それを私たちはこんなことをやっている、だからみんなでやらないといけないと、全体の意識を醸成するために広報の仕方について、てこ入れすると違った展開もあるのではないかと思う。
- ：行政の評価は、住民組織からいうと、事業を知らないので評価できない。
団体の資金不足については、いろいろな助成金があるが、それを知らない団体もある。そうした広報もしっかりしないと、満足度は下がってくると思う。
- ：活動団体も多くなっているので、活動団体の連合組織のようなもの、場を作って情報を共有し、抱える悩みに対して、応援、支援してくれる団体はないか、うちとおたくでやりましょうという場を作っていないといけないのではないか。
- ：市民活動団体は、他の団体や市と協働して何かをしたいと本当に思っているのかと突き詰めて聞かれると、意外と自分たちの活動で満足されている人が多いのではないかと思うので、そういうことも分かってもらっていただこうかと思う。
- ：協働すれば大きな力になるのだろうけど、団体によっては目的をそれぞれ持っているので、自らのグループでその目的を達成できれば満足できているという評価をされている。
- ：その意識を変えていくことは必要ではないかと思う。
- ：横で繋がれば、こんなことも解決できるという部分を団体に対して後押しできればいいと思う。
- ：現在、市民活動団体のヒアリングをしており、次回までには意見を資料2の表の課題と今後の対応策について整理したものと、町内会・自治会のヒアリングも終えていけば、あわせて方向性を出させていただき、確認していただきたいと考えている。

4 その他

事務局より、市民活動団体ヒアリング実施状況の報告。

5 閉会